

日野上地域にお住まいの皆様へまち協からお知らせです。

かわすじだより

Hinokami Machikyo
vol. 120
kawasuji-dayori

令和8年8月25日発行 編集・発行／日野上まちづくり協議会広報担当 TEL0859-82-0318



7月19日(日)
午後1時30分～

日南町まちづくり協議会 設立20周年記念式典

が開催されました



七瀬英夫前会長

伊田史昭さん

「日南町まちづくり協議会設立20周年記念式典」が7月19日、日南町総合文化センターさつきホールを会場に開催されました。多くの町民、関係者が参加される中、まち協功労者表彰・講演・パネルディスカッション・総括・共同宣言が行われ、日南町7つの地域のこれからについて多くの課題やヒントが示される催しとなりました。功労者表彰では日野上まちづくり協議会から七瀬英夫前会長と、長年監事を勤めていただいた伊田史昭さんが受賞されました。まことにありがとうございます。地域の皆様に支えられまたひとつの節目を迎えたまちづくり協議会活動。厚く御礼申し上げますとともに、守り育ててきた地域を未来へ引き継ぐため、今後とも日野上まちづくり協議会の活動にご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

10月4日⑤ 日南町総合防災訓練を開催します

テーマ「豪雨災害時における迅速な住民避難体制の構築(案)」

避難経路や手順の確認などしっかり体験するために、ぜひ地元での訓練にご参加ください!

10月中に日野上地域振興センター駐車場の舗装工事が行われます。

センター駐車場舗装工事が予定されています。ご不便をおかけしますがご協力のほどよろしくお願いいたします

お問い合わせなど日野上まち協への連絡方法はコチラです

電話&FAX番号 (0859)82-0318

eメール skn0100@town.nichinan.tottori.jp



日野上地域の最新情報
フェイスブックで
情報発信中!

gogo日野上

日南町まちづくり協議会設立 20 周年の総括【要旨】

発表者／日南町役場地域づくり推進課 課長 実延太郎

この総括は、日南町のまちづくり協議会が歩んできた20年を単に振り返るのではなく、日南町はなぜ、まちづくり協議会をスタートさせたのか、そして、この20年間で何を築き、これから先何を目指し、どう歩んでいくのか、4つの問いとともに整理しました。

【なぜ7つの協議会を設置したのか】

20年前、日南町は人口減少と少子高齢化が進み始め、地域社会の姿が大きく変わろうとしていました。山の上小学校への統廃合が形となった年のことです。これまでのように行政だけでは地域課題へのきめ細やかな対応が難しくなることが見込まれました。地域にある長年培われてきた支え合いの文化やつながりを活かし、「行政が地域を支える」という考えから一歩進んだ、「**地域が主体となり地域をつくる**」新しい地域自治の仕組みとして平成18年、7つの地域にまちづくり協議会が発足しました。

【地域でどんな取り組みが重ねられてきたのか】

7つの地域では、それぞれの地域資源を生かしながら、多くの取り組みが行われてきました。どの地域の取り組みにも共通して言えるのは**土地・所の資源を生かし、人と人のつながりを育ててこられた**ということです。7つの地域それぞれの特色は、結果として日南町各まちづくり協議会の特徴となり、この**多様性こそ地域自治の強み**となったのです。

【まちづくり協議会は地域にどんな意義をもたらしたのか】

まちづくり協議会は単なる事業主体ではなく、地域に4つの基盤機能を果たし続けてきました。一つには「**話し合いの場(意思形成)**」、二つ目には「**活動の基盤(住民活動支援)**」、三つ目には「**内外の結節点(外部連携)**」、そして四つ目には「**役割分担の調整(地域間調整)**」であります。以上のことから20年間でまとめると、まちづくり協議会は「**学び**」と「**地域運営**」を一体化した拠点となり、その活動は年を積み重ねるごとに**多様な地域づくりと地域自治を築き、町民の高い幸福度につながっている**と言えるのではないのでしょうか。

【次の10年に向け何を見直し何を育てていくのか】

担い手不足や役員の固定化、活動が続けることへの負担感など、地域から寄せられる声も年々大きくなっています。これまでと同じことを続けているだけでは日南町の存続はありません。これまでの仕組みをそのまま守るのではなく、地域の実情に応じて役割や体制を柔軟に見直し、新しい担い手や地域外の力も取り入れながら地域づくりを進化させていかなければなりません。20年前に始まったまちづくり協議会という挑戦は、地域住民の皆様の努力によって今日まで大切に受け継がれてきました。次の10年に向けては無理のない地域運営へ転換していくことが重要であり、大きく「**継続・再編・創造**」の視点で課題を整理しました。

「何を継続するか」…防災・福祉など暮らしの安全と安心、地域のつながりを支える基礎的機能の維持

「何を組み替えるか」…役割分担や事業の整理・統廃合を進め、無理のない運営へ転換を促します

「何を新たに担うか」…企業・学生、地域おこし協力隊など多種多様な人材と連携し、デジタル技術も活用した地域の価値を創造

【行政が地域によりそう伴奏支援の3つの柱】

行政は地域の声に耳を傾け、地域が安心して挑戦できる環境を整え、必要な時に背中を押す、そのような伴走者でありたいと考えています。

「地域を支えること」…必要な財源を確保するとともに、人材の紹介・育成、外部との連携に努めます

「事務局を支えること」…地域自治を支える事務局は、まちづくり協議会活動の要。支援のあり方や人員体制について一緒に考えます

「つなぐ役割を果たす」…地域と地域、地域と企業、地域と学生。新しいつながりを生み出す橋渡し役をしっかりと担っていきます

私たちが目指すのは「地域だけで頑張る地域づくり」ではありません。地域が主体となり、行政が伴走し、それぞれが役割を分かち合い支え合いながら未来をつくっていく「地域づくり」です。

20年前に始まったまちづくり協議会は、多くの地域住民の熱意と努力に支えられ、今日まで受け継がれてきました。そのバトンを受け継ぎ、私たちが子や孫世代へと引き継いでいく一歩一歩が次の10年の歩みとなるのです。

(2026.7.19)

